

設 立 趣 旨 書

1 設立の趣旨

宮崎には、豊富な人的、文化的、自然的資源（resource）があるが、現状では有効活用されていないとはいいがたく、宝のもちぐされどころか資源の無駄使いとなっているものがあり、資源の有効利用の観点から重大な問題点である。

その最たるものは人的資源の無駄遣いである。

直近の宮崎県の有効求人倍率は0.51倍である。100人の求職に対し、50人しか就業できない。温暖で自然豊かな最適な環境で育ちワイルドで且つ温和で強調性に富み、体力・知力とも充実した若者を含んだ宮崎県の求職者の半分は、生産活動に参加できずに放置されている。これまで使った莫大な子育て・教育費が無駄になっている。県民、市民、行政等が、彼らを社会の生産活動に参加させずに朽ち果てさしてはならない。我々は、行政等と協働して彼らの雇用の場を創造して、製造、IT、サービス、保健、医療、福祉等の各生産現場に配置することを努力する。

第二に文化資源である。宮崎県は神話、神楽、日向国分寺跡の五智如来像等、世界に誇れる文化遺産があるが、外国人観光客等はほとんど他の地域に取られている。全力を挙げて世界に発信しないといけない。外国人は面前である神々しい神楽を舞われたら、魅了されるだろう。さらに日之影町の現代の名工、広島一夫さんの竹かご製品はアメリカスミソニアン博物館の学芸員に文化的価値を発見され、同博物館に収蔵された。それまで県民は、単なる昔の田舎の日用品と気にもとめていなかった。資源は足下に転がっている。

第三に自然的資源である。せっかく神が与えた自然資源が有効活用されていない。高千穂峡、鬼の洗濯岩等でも観光客は呼べるが、それだけでは工夫が足りない。アメリカにはサンベルト地帯という南部の地域がある。気候温暖なためアメリカ人が退職後生活を送る所として有名である。ここを宮崎と比較したらどうだろう。気候温暖な点は同じだが治安が全然違う。北部に比べ南部は銃規制が甘い。アメリカでは10,000円で銃が手にはいる。人は皆、銃をポケットに持っていると思った方がいい。退職後の生活は断然宮崎が有利である。このことを宮崎は世界にアピールすべきだ。外国人が宮崎に落とすお金は県民をうるおすだろう。

以上に資する継続した活動を行うため特定非営利活動法人を設立する。

2 申請に至るまでの経緯

クリエイトリゾース宮崎は、平成19年11月28日設立任意団体ボディオブイントロデュシングヒムカ、平成22年設立ボランティア団体ヤング・ジョブゲティング・アシストカリキュラム（YGA）を前身として上記の活動を継続し、現在に至っている。

平成23年 5月 2日

特定非営利活動法人クリエイトリゾース宮崎

設立代表者 宮崎県宮崎市吉村町平塚甲 1853 番地 2

緒方 和夫